

おれんじ通信

29

知って支える認知症



若年性認知症について ～疾患の理解③

65歳未満で発症した認知症を「若年性認知症」と呼びます。原因疾患はさまざまであり、症状も異なります。平成21年の調査によると、発症平均年齢は51歳で、18歳～64歳の人口10万人あたりの発症数は47.6人とされています。

発症年齢が現役中にあたることから、仕事や家事、子育てをしている中で、作業の段取りが悪くな

ったり、ミスが目立ったりと自身の変化を自覚することが多くあります。しかし、それらの変化を疲れやうつ病などと思い込んでしまうことがあります。

65歳未満の方で認知症を疑う症状がある場合は、精神科や神経内科、物忘れ外来などの標榜科目のある医療機関、認知症相談医(市ウェブサイト参照)に相談しましょう。

認知症は、早期発見・対応が大切です。初期の認知症は、診断が難しいといわれていますが、早期に受

診し、治療を受けることで症状の進行を遅らせることができます。

受診の前に、あらかじめ気になることをまとめておきましょう。また、診断を受ける際には、誰が説明を聞くのか、家族などと話しあったうえで医療機関に相談しましょう。

原因疾患や症状の程度によって、利用できる制度などもあります。詳しくは市ウェブサイトをご覧ください。どうか、お問合せください。



今回は「ほっとひと息 認知症対応型通所介護」です。なお、おれんじ通信への意見をお寄せください。

☎地域包括ケア推進課 06(4309)3013、FAX06(4309)3848